【授業科目】病態解析診断学　Laboratory Medicine

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝	３年次 後 期	必 修	2	30	講義	巻末にて掲載	可

授業概要 （内容と進め方）	病態解析診断学では各論ごとの知識を横断的に結びつけるために、臨床検査データを含めた症例を提示し、その症例における病態を推察することを実践させる。臨床検査値から病態を推察させることにより、検査データがいかに診療にとって重要であるかを認識させ、正確な検査を行うこと、技術的問題に対処する能力を養わせることを目的とする。実際には、検査所見の異常から病態および疾患を推定できること、検査所見の異常値が意味すること、さらに疾患の診断、治療に向けて必要な検査の種類を挙げることができるよう教授し、提示された症例に関して各自で自己学修し、グループ発表を行うことにより、プレゼンテーション能力も養えるよう教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出された課題・レポートにはコメントする事でフィードバックを行う。
授業の位置づけ	・本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	- 検査所見の異常から病態および疾患を推定することができる。 - 検査所見の異常値について意味すること、対応すべきことが理解することができる。 - さらに疾患の診断、治療に向けて必要な検査の種類を挙げることができる。 - 発表することにより、プレゼンテーション能力を養うことができる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	- 本演習は、臨床病態学ⅠおよびⅡで履修した内容を応用し理解を深めるものであり、症例から病態を把握するためには、これらの履修内容を十分理解していなければならない。 - これまで授業で与えられた教科書、プリントだけではなく、図書館蔵書などを利用して十分な調査をすることが必要である。(60 分)
授業計画	第 1 回　病態解析診断学の概要 第 2 回　循環器疾患の診断、治療 第 3 回　呼吸器疾患の診断、治療 第 4 回　消化器疾患の診断、治療 第 5 回　内分泌・代謝疾患の診断、治療 第 6 回　血液・免疫疾患の診断、治療 第 7 回　神経筋疾患の診断、治療 第 8 回　症例検討 循環器疾患 第 9 回　症例検討 呼吸器疾患 第 10 回　症例検討 消化器器疾患 第 11 回　症例検討 腎泌尿器疾患 第 12 回　症例検討 内分泌疾患 第 13 回　症例検討 免疫疾患 第 14 回　症例検討 血液疾患 第 15 回　症例検討 神経筋疾患
	全て山口
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 70%　講義ごとのレポートおよびグループ発表　　30%　学期末試験
教科書	プリントを配付します。
参考書等	病気がみえる シリーズ（メディックメディア）
学生への メッセージ	- 本演習に向けての十分な調査、学修することが、臨床検査とへの関心、興味もいっそう増大するはずである。 - 積極的に発表することが、プレゼンテーションに対する自信をもつことになる。